

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)一宮物流センター新築工事	階数	地上2F
建設地	愛知県一宮市	構造	S造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	90人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年11月 予定	評価の実施日	2017年3月24日
敷地面積	18,832 m <sup>2</sup>	作成者	安藤 寿洋
建築面積	11,347 m <sup>2</sup>	確認日	2017年3月24日
延床面積	18,568 m <sup>2</sup>	確認者	安藤 寿洋



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

標準計算 BEE=1.0

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%

②建築物の取組み 82%

③上記+②以外の 82%

④上記+ 82%

(kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q1 室内環境

Q2 サービス性能

Q3 室外環境 (敷地内)

LR1 エネルギー

LR2 資源・マテリアル

LR3 敷地外環境

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q のスコア = 2.8

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

音環境 温熱環境 光・視環境 空気質環境

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

機能性 耐用性 対応性

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.5

生物環境 まちなみ 地域性・

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.4

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.4

建物外皮の 自然エネ 設備システ 効率的

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.5

水資源 非再生材料の 汚染物質

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

地球温暖化 地域環境 周辺環境

### 3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p>3.7</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p>2.0</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p>3.3</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p>1.0</p>

<h4>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</h4> <p>27.2 %</p>	<h4>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</h4> <p>0.0 %</p>
<h4>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</h4> <p>なし</p>	
<h4>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</h4> <p>なし</p>	

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用  
Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4)地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積} + \text{附属物面積}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>								
<b>Q1 室内環境</b>								
<b>1 音環境</b>								
1.1 騒音				-	-	-	-	-
1.2 遮音				-	-	-	-	-
1 開口部遮音性能				-	-	-	-	-
2 界壁遮音性能				-	-	-	-	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	-	-	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-	-	-
1.3 吸音				-	-	-	-	-
<b>2 温熱環境</b>								
2.1 室温制御				-	-	-	-	-
1 室温				-	-	-	-	-
2 外皮性能				-	-	-	-	-
3 ゾーン別制御性				-	-	-	-	-
2.2 湿度制御				-	-	-	-	-
2.3 空調方式				-	-	-	-	-
<b>3 光・視環境</b>								
3.1 昼光利用				-	-	-	-	-
1 昼光率				-	-	-	-	-
2 方位別開口				-	-	-	-	-
3 昼光利用設備				-	-	-	-	-
3.2 グレア対策				-	-	-	-	-
1 昼光制御				-	-	-	-	-
3.3 照度				-	-	-	-	-
3.4 照明制御				-	-	-	-	-
<b>4 空気質環境</b>								
4.1 発生源対策				-	-	-	-	-
1 化学汚染物質				-	-	-	-	-
4.2 換気				-	-	-	-	-
1 換気量				-	-	-	-	-
2 自然換気性能				-	-	-	-	-
3 取り入れ外気への配慮				-	-	-	-	-
4.3 運用管理				-	-	-	-	-
1 CO <sub>2</sub> の監視				-	-	-	-	-
2 喫煙の制御				-	-	-	-	-
<b>Q2 サービス性能</b>								
<b>1 機能性</b>								
1.1 機能性・使いやすさ				-	-	-	-	-
1 広さ・収納性				-	-	-	-	-
2 高度情報通信設備対応				-	-	-	-	-
3 バリアフリー計画	独自			-	-	-	-	-
1.2 心理性・快適性				-	-	-	-	-
1 広さ感・景観				-	-	-	-	-
2 リフレッシュスペース				-	-	-	-	-
3 内装計画				-	-	-	-	-
1.3 維持管理				-	-	-	-	-
1 維持管理に配慮した設計				-	-	-	-	-
2 維持管理用機能の確保				-	-	-	-	-
<b>2 耐用性・信頼性</b>								
2.1 耐震・免震				3.0	0.52	-	-	3.0
1 耐震性				3.0	0.48	-	-	-
2 免震・制振性能				3.0	0.80	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	0.20	-	-	-
1 躯体材料の耐用年数				3.2	0.33	-	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	②	ガルバリウム鋼板 25~30年		3.0	0.23	-	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				4.0	0.23	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.09	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.08	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.15	-	-	-
2.4 信頼性				3.0	0.23	-	-	-
1 空調・換気設備				3.0	0.19	-	-	-
2 給排水・衛生設備				3.0	0.20	-	-	-
3 電気設備	②			3.0	0.20	-	-	-
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-	-
5 通信・情報設備				3.0	0.20	-	-	-
<b>3 対応性・更新性</b>								
3.1 空間のゆとり				3.6	0.48	-	-	3.6
1 階高のゆとり				5.0	0.31	-	-	-
2 空間の形状・自由さ				5.0	0.60	-	-	-
3.2 荷重のゆとり				5.0	0.40	-	-	-
3.3 設備の更新性				3.0	0.31	-	-	-
1 空調配管の更新性	②			3.0	0.38	-	-	-
2 給排水管の更新性				3.0	0.17	-	-	-
3 電気配線の更新性				3.0	0.17	-	-	-
4 通信配線の更新性				3.0	0.11	-	-	-
5 設備機器の更新性				3.0	0.11	-	-	-
6 バックアップスペースの確保				3.0	0.22	-	-	-
				3.0	0.22	-	-	-

② ガルバリウム鋼板 25~30年

1F: 6.5m、2F(水下まで): 5.05m  
壁長さ比率=0.05

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数		
		<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>						-	0.57
1 生物環境の保全と創出	独自③			2.0	0.30		-	2.0	
2 まちなみ・景観への配慮	独自④			3.0	0.40		-	3.0	
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>				2.5	0.30		-	2.5	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④			3.0	0.50		-		
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50		-		
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>				-	-	-	-	3.4	
<b>LR1 エネルギー</b>				-	0.40	-	-	3.4	
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPIm=			-		-	-	
2 自然エネルギー利用				3.0	0.28		-	3.0	
<b>3 設備システムの高効率化</b>				4.0	0.43		-	4.0	
集合住宅以外の評価(3a.3b)			BEI値=0.62	4.0	1.00		-		
集合住宅の評価(3c)					-		-		
<b>4 効率的運用</b>				3.0	0.29		-	3.0	
集合住宅以外の評価				3.0	1.00		-		
4.1 モニタリング				3.0	0.50		-		
4.2 運用管理体制				3.0	0.50		-		
集合住宅の評価					-		-		
4.1 モニタリング					-		-		
4.2 運用管理体制					-		-		
<b>LR2 資源・マテリアル</b>				-	0.30	-	-	3.5	
<b>1 水資源保護</b>				3.0	0.15		-	3.0	
<b>1.1 節水</b>				3.0	0.40		-		
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>				3.0	0.60		-		
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67		-		
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33		-		
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>				3.5	0.63		-	3.5	
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07		-		
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24		-		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.20		-		
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	② 独自		ビニル床材、ビニルクロス	4.0	0.20		-		
2.5 持続可能な森林から産出された木材				2.0	0.05		-		
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自		躯体と仕上材、内装材と設備が分別可能	5.0	0.24		-		
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>				3.8	0.22		-	3.8	
<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>				5.0	0.32		-		
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>				3.3	0.68		-		
1 消火剤			不活性ガス消化設備の使用	4.0	0.33		-		
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	0.33		-		
3 冷媒				3.0	0.33		-		
<b>LR3 敷地外環境</b>				-	0.30	-	-	3.2	
<b>1 地球温暖化への配慮</b>				①	ライフサイクルCO2概算値:82%	3.7	0.33	-	3.7
<b>2 地域環境への配慮</b>				3.0	0.33		-	3.0	
<b>2.1 大気汚染防止</b>				3.0	0.25		-		
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>				3.0	0.50		-		
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>				3.0	0.25		-		
1 雨水排水負荷低減	独自			3.0	0.25		-		
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25		-		
3 交通負荷抑制	独自		適切な駐車場・荷捌駐車場スペース、2ヶ所の出入口を計画	4.0	0.25		-		
4 廃棄物処理負荷抑制				2.0	0.25		-		
<b>3 周辺環境への配慮</b>				3.0	0.33		-	3.0	
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>				3.0	0.40		-		
1 騒音	独自			3.0	0.33		-		
2 振動	独自			3.0	0.33		-		
3 悪臭				3.0	0.33		-		
<b>3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制</b>				3.0	0.40		-		
1 風害の抑制				3.0	0.70		-		
2 砂塵の抑制					-		-		
3 日照障害の抑制				3.0	0.30		-		
<b>3.3 光害の抑制</b>				3.0	0.20		-		
1 屋外照明及び屋内照明のつらちに漏れる光への対策				3.0	0.70		-		
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30		-		

# 重点項目スコアシート

(仮称)一宮物流センター新築工事

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2014年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2014(v.2.0)\_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>3.7</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.7	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>3.3</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.5	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>2.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.17	外構緑化:27.15%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>			(評価ポイント)	<b>1.0</b>
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

### ■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

## ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)一宮物流センター新

計画上の配慮事項	
総合	<p>注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仕様と経済性を両立した計画(無駄の少ないコストパフォーマンスに優れた計画)</li> <li>・物流センターとしての作業環境の充実</li> </ul>
Q1 室内環境	<p>注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>工場用途のため対象外</p>
Q2 サービス性能	<p>注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・管理室はOAフロア採用。</li> <li>・管理室天井高3m以上。</li> </ul>
Q3 室外環境(敷地内)	<p>注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・敷地全周をメッシュフェンス、目隠しフェンスで囲い、防犯性、視認性に配慮している。</li> </ul>
LR1 エネルギー	<p>注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高効率型空調機を採用</li> </ul>
LR2 資源・マテリアル	<p>注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・節水型衛生器具を採用</li> <li>・躯体、内装材、設備が錯綜しない</li> <li>・有害物質を含まない材料を各所に使用している</li> </ul>
LR3 敷地外環境	<p>注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・適切な駐車場、荷捌き駐車場、W16m出入口を南側道側に設置</li> </ul>
その他	<p>注) 上記の6つのカテゴリ以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。</p>